

各位

会社名 株式会社アートフォースジャパン
代表者名 代表取締役社長 山口 喜廣
(コード番号 5072 TOKYO PRO Market)
問合せ先 取締役経営統括本部長 野崎 昭彦
(TEL 0557-45-1109)

第2四半期(中間期)業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

2024年2月15日に公表いたしました2024年12月期中間期連結会計期間(2024年1月1日~2024年6月30日)の業績予想と、本日公表の実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2024年12月期第2四半期(中間期)連結会計期間(2024年1月1日~2024年6月30日)の業績予想と実績値の差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想(A)	百万円 2,160	百万円 24	百万円 17	百万円 10	円 銭 41.07
当中間期実績(B)	2,092	△1	△10	△11	△45.33
増減額(B-A)	△67	△26	△27	△21	
増減率(%)	△3.1	△105.7	△159.9	△210.4	
(ご参考) 前中間期実績 (2023年12月期中間期)	1,983	△39	△40	△16	△63.92

2. 差異の理由

当第2四半期連結累計期間につきましては、「地盤改良事業」、「その他事業」の報告セグメント売上高は当初予想より、新設住宅着工戸数が対前年比マイナス基調で推移している影響から、工事着工に至るまでの計画に遅れが生じていることなどから、前回公表より67百万円下回りました。

一方、利益については、技術者の高齢化による働き手の減少等の課題や売上原価率の上昇を抑えるべく様々な施策を実行し、経費の縮減に努めたものの、売上原価は当初予想より37百万円の減少にとどまって売上総利益は29百万円下回りました。販売費および一般管理費は当初予想より3百万円減少いたしました。営業利益は当初予想より26百万円下回り、1百万円の営業損失となりました。経常利益は当初予想より27百万円下回り、10百万円の経常損失となりました。特別損益は、固定資産売却損1百万円の発生があり、上記の結果、親会社株主に帰属する中間純利益は、法人税等が当初予想より3百万円減少いたしました。当初予想より21百万円下回り、11百万円の親会社株主に帰属する中間純損失となりました。

なお、通期の連結業績予想につきましては、円安の進行と海外情勢の緊迫化等の地政学リスクに伴う資源価格及び原材料価格の高騰が継続しているほか、物価上昇による個人消費への影響や住宅着工戸数の推移など、景気への影響が不透明な状況が続くものと見込まれることから、現時点で合理的に算定することが困難であるため、2024年2月15日に公表いたしました連結業績予想の通期(2023年1月1日~2023年12月31日)の数値を据え置いております。但し、今後、合理的な算定が可能となった時点で修正が必要となった場合には、速やかに公表いたします。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は様々な要因の変化により、予想と異なる場合があります。